

# 教科書検討の観点から見た特色

## 高校生の美術 1 (116-日文・美I-702)

### 1 学習指導要領との関連

主要な観点	編集上の特色	ページ
学習指導要領全般	●学習指導要領の示す「芸術科」の目標及び内容を踏まえ、生徒の「芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力」を育成できるよう幅広い視点から題材を設定した。	●教科書全般
「美術I」の目標との関連	●学習指導要領に示された「美術I」の目標及び内容を踏まえ、生徒の「造形的な見方・考え方を働かせ」て、「美的体験」を重ね、「生活や社会の中の美術や芸術文化と幅広く関わる資質・能力」を育成できるよう適切に題材を選択し配列した。 ●題材の設定については、中学校美術の基礎の上に立ち、高校生の造形的な発達に応じた取り扱いができるように配慮した。 ●学習指導要領の目標と内容が三つの柱で整理されたことを踏まえて、全題材で学びの目標を三つの観点で示し、指導と評価の視点を明確にした。	●教科書全般
表現及び鑑賞の活動の取り扱い	●全ての題材で表現と鑑賞を一体的に学習できるよう配慮し、表現題材においても鑑賞活動を一体化させた。 ●表現題材では、「発想や構想に関する資質・能力」を育むために作例を多く示し、制作過程などを示して「技能に関する資質・能力」をも身に付くよう配慮した。 ●鑑賞題材では、「美術作品などに関する鑑賞」だけではなく、「美術の働きや芸術文化に関する鑑賞」にも重点を置いて題材を設定し、作品を精選して示した。	●教科書全般

### 2 資質・能力の三つの柱との関連

主要な観点	編集上の特色	ページ
知識及び技能の習得	●題材のポイント、主文、作品解説、学びの目標を〔共通事項〕(知識)への意識を促す内容とし、学習を通して造形的な見方・考え方を深められるよう配慮した。 ●題材に固有な技法は当該ページで解説し、様々な表現の基礎的な内容となる技法や制作過程などは巻末にまとめ、知識・技能の習得に役立つように工夫した。 ●色彩について理解を深め学習に生かせるよう巻末に資料としてまとめ、色相環のページを本の外側へ広げてどの題材でも参照しながら学習できるよう工夫した。	●教科書全般 ●39, 41, 59, 61, 65, 74・75, 83, 85, 87, 97, 99, 130～151 ●152～154
思考力, 判断力, 表現力等の育成	●表現題材では、ポイントや主文の文章に、発想や構想と鑑賞の双方で働く「中心となる考え」を盛り込み、鑑賞したことが発想し構想を練る時に生かされ、また発想し構想したことが鑑賞に生かされるように工夫した。 ●表現題材ではスケッチやデッサン、制作過程などを多く掲載して、表現活動を行うに当たって、発想や構想の手がかりになるように配慮した。 ●作者の言葉や高校生の作品とその制作意図を掲載し、作品から感じ取ったことなどを基に、主題性のある表現を追求できるよう工夫した。	●教科書全般 ●10, 14, 20, 25, 39, 41, 45, 54・55, 58～62, 65, 72, 74・75, 77, 81, 83, 85, 87, 96・97, 99 ●5, 9, 17, 19, 21, 25, 43, 63～65, 70・71, 77, 81, 87, 93, 95, 97, 99
実感を伴う鑑賞活動への配慮	●作品の大きさの体感や作者の表現の工夫が読み取れるように、実物大で作品を掲載するページを複数設定した。 ●両観音で開くページや絵巻を蛇腹の折り込みページで掲載するなど、作品を鑑賞する上での工夫を凝らした。	●6, 47～52 ●29・30, 32～37, 49～52
学びに向かう力, 人間性等の涵養	●各題材の本文の多くを問いかける文体にして、その解決に結びつく視点や考え方を、ポイントや学びの目標に盛り込み、学習に主体的に取り組めるよう工夫した。 ●生涯にわたって美術を愛好する心情や豊かな感性が育めるよう、巻末に「これからの私と美術」のページを設け、様々な分野で活躍する著名人の言葉を掲載した。	●教科書全般 ●157

### 3 学習効果への配慮

主要な観点	編集上の特色	ページ
編集意図の新鮮さ・明確さ	●豊富なページ数で題材の情報量と学習に役立つ資料の充実を図った。 ●「ポイント」「リンク」「実物大」「作家の言葉」「学びの目標」をマークやイラストレーションで示し、生徒が学習に取り組みやすいように留意した。 ●技法・資料の扉では透明フィルムと併せて錯視の効果を味わえるよう工夫した。	●教科書全般 ●教科書全般 ●127～129
内容の程度、正確性への配慮	●掲載作品には、解説文や作者の言葉を付けて学習に役立つように工夫した。 ●日本人作家、撮影者、読みにくい作品名、日常あまり使われない用語などには振り仮名を付けるなどして、学習に役立つよう配慮した。 ●作品と作家の情報は、詳しく、正確で、分かりやすい表記を心がけた。	●教科書全般
他教科や中学校美術科との関連	●古文や歴史の教科書で紹介される作家や美術作品、家庭科の住生活のデザイン、化学の炎色反応など他教科で取り上げられている内容を紙面に反映させた。 ●「漫画」「アニメーション」「美術館に行こう」など中学校美術科の内容を受けて、生徒の造形的な能力の発達に応じた取り扱いができるように工夫した。	●教科書全般, 70・71, 76・77, 82～87, 150, 152 ●42・43, 96・97, 156
主体的・対話的で深い学びとの関連	●各題材の本文の多くを問いかける文体にし、その解決に結びつく視点や考え方を、ポイントや学びの目標に盛り込むことで、見方・考え方を働かせて、主体的・対話的で深い学びが推進されるように工夫した。	●教科書全般
時代への適応性及び環境への視点	●身の回りにあるデザインから学習する題材を設定するなど、今日的な内容を積極的に取り上げた。 ●SDGsアイコンなど自然環境に関する事例や、生活環境に関わる作例などを取り上げ、環境への意識が高まるように配慮した。	●68～71, 74～77, 80～89 ●4・5, 64, 74～76
人権尊重などへの視点	●他者との学び合いや話し合いの場を通して、学びの中から男女の平等、自他の敬愛を重んずる心情を培えるよう、題材の設定や掲載作品の選択に配慮した。 ●年表の「美術・一般史」の日本の項目について、色を変え、文頭に丸印を付けるなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮した。	●教科書全般 ●105～108
知的財産権や肖像権に関する配慮	●自己や他者の作品を尊重する態度を育み、美術に関する知的財産権や肖像権などについての理解を深められるように、「著作権と肖像権」を解説した。	●155
我が国及び諸外国の美術文化についての視点	●日本美術の題材を設定し、我が国の美術文化への理解が深まるように工夫した。 ●資料として美術史のページを設け、豊富な作例をあげて、日本のみならず諸外国の美術文化を理解する手がかりとなるよう配慮した。	●26～37, 66・67 ●102～126
デジタルコンテンツの充実	●全ての題材ページや、技法資料ページの一部に二次元コードを掲載し、機器で読み取ると当該ページに関連する資料や動画などを参照できるよう工夫した。	●教科書全般

### 4 造本・体裁

主要な観点	編集上の特色	ページ
印刷	●美術の教科書にふさわしく、作品のよさが正しく伝わるように、鮮明で美しい印刷を心がけた。印刷用紙も印刷に最適な用紙を厳選した	●教科書全般
製本	●判型はA4判とし、製本方式は、折ごとに糸でかがり表紙を付ける形式で、破れにくく堅牢な造本にした。	●教科書全般
安全性について	●印刷は生徒のアレルギーなどを考慮して植物性インキを使用した。また、表紙の表面加工にも配慮し、教科書を使用するに当たっての健康上の安全性に留意した。	●教科書全般
環境への配慮	●用紙は、表紙・本文とも再生紙を使用し、環境への配慮を十分にした。	●教科書全般